

表 7-1-30 予測に用いた気象条件

		有風時の出現頻度および平均風速																calm
		N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	
春季	出現頻度(%)	25.3	11.2	2.6	2.4	1.8	0.7	3.2	9.5	6.7	3.0	3.0	3.5	5.3	5.1	6.2	9.0	1.8
	平均風速(m/s)	3.8	3.1	1.5	1.2	1.1	1.9	2.7	2.9	2.3	1.5	1.4	2.1	2.4	2.1	2.6	3.1	—
夏季	出現頻度(%)	14.0	12.3	4.7	3.2	2.9	2.2	4.6	13.0	13.0	3.3	2.7	4.1	3.7	4.5	3.4	5.3	3.2
	平均風速(m/s)	2.8	2.3	1.6	1.5	1.1	1.1	2.2	2.3	2.3	1.6	1.3	1.5	1.8	1.8	1.5	1.9	—
秋季	出現頻度(%)	21.6	14.9	3.5	2.7	1.4	2.3	3.1	12.3	9.9	3.2	1.6	2.5	1.8	3.4	3.1	8.9	3.6
	平均風速(m/s)	2.9	2.5	1.4	1.4	1.2	1.3	2.4	2.6	1.9	1.4	1.2	1.4	1.6	2.0	2.0	2.5	—
冬季	出現頻度(%)	17.3	10.2	3.5	3.8	2.6	1.9	2.0	4.6	5.7	3.7	1.8	3.1	5.7	8.7	9.9	10.5	4.9
	平均風速(m/s)	2.9	2.3	1.1	1.2	1.1	1.0	1.6	1.4	1.5	1.5	1.1	1.7	2.2	2.8	2.5	2.8	—

④ 予測結果

重機類の稼働に係る降下ばいじんの予測結果を表 7-1-31 に示す。これによると特別養護老人ホーム白寿荘における降下ばいじん量は1.5～1.9ton/km²/月、鳥居平新田における降下ばいじん量は0.2～0.4ton/km²/月で、工事による寄与は現況値と同程度で粉じん濃度の増加の程度は大きいものの、現況値を加えても「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」に示された、住民の生活環境を保全することが特に必要な地域の降下ばいじん総量の指標（20ton/km²/30日）は下回っている。

表 7-1-31 重機類の稼働に係る粉じん等の予測結果

工事による寄与値 予測地点	特別養護老人ホーム白寿荘側評価時				鳥居平新田側評価時			
	1 期工事掘削 (着工後 6 ヶ月目～17 ヶ月目 7 ユニット/月 (12 ヶ月平均))				2 期工事掘削 (着工後 20 ヶ月目～31 ヶ月目 6 ユニット/月 (12 ヶ月平均))			
	降下ばいじん量 (ton/km ² /月)				降下ばいじん量 (ton/km ² /月)			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
鳥居平新田	0.13	0.15	0.12	0.14	0.23	0.36	0.33	0.29
敷地境界(北口)	0.53	0.72	0.63	0.62	0.66	1.19	1.00	0.80
敷地境界(南口)	2.55	2.84	3.13	3.33	0.28	0.37	0.32	0.45
特別養護老人ホーム 白寿荘	1.52	1.66	1.90	1.89	0.25	0.33	0.29	0.40
現況値	降下ばいじん量 (ton/km ² /月)				降下ばいじん量 (ton/km ² /月)			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
鳥居平新田	1.12	1.31	0.92	0.95	1.12	1.31	0.92	0.95
敷地境界(北口)	1.12	1.31	0.92	0.95	1.12	1.31	0.92	0.95
敷地境界(南口)	1.38	0.77	1.09	1.17	1.38	0.77	1.09	1.17
特別養護老人ホーム 白寿荘	1.38	0.77	1.09	1.17	1.38	0.77	1.09	1.17
現況値 + 寄与値	降下ばいじん量 (ton/km ² /月)				降下ばいじん量 (ton/km ² /月)			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
鳥居平新田	1.25	1.46	1.04	1.09	1.35	1.67	1.25	1.24
敷地境界(北口)	1.65	2.03	1.55	1.57	1.78	2.50	1.92	1.75
敷地境界(南口)	3.93	3.61	4.22	4.50	1.66	1.14	1.41	1.62
特別養護老人ホーム 白寿荘	2.90	2.43	2.99	3.06	1.63	1.10	1.38	1.57

二酸化窒素(NO_2)、二酸化硫黄(SO_2)、浮遊粒子状物質(SPM)に係る環境基準の達成状況に影響を及ぼさないこと。
降下ばいじんの現況に影響を及ぼさないこと。

④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

A. 工事中の重機類稼働による排ガスの影響

重機類稼働による二酸化窒素および浮遊粒子状物質の最大着地濃度地点および代表評価地点における年間値の予測結果は、二酸化窒素の年間98%値は最大0.034ppm、浮遊粒子状物質の2%除外値は最大0.054mg/m³で、いずれも長期評価で環境基準を満足すると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

B. 工事中の関係車両通行による排ガスの影響

二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに、バックグラウンド値を加味した将来の年間値は環境基準を満足すると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

C. 工事中の粉じんの影響

重機類の稼働に係る降下ばいじんの予測結果は、特別養護老人ホーム白寿荘における降下ばいじん量は1.5～1.9ton/km²/月、鳥居平新田における降下ばいじん量は0.2～0.4ton/km²/月で、工事による寄与は現況値と同程度で粉じん濃度の増加の程度は大きいものの、現況値を加えても「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」に示された、住民の生活環境を保全することが特に必要な地域の降下ばいじん総量の指標(20ton/km²/30日)は下回っており、環境の保全上の目標と整合している。

ただし、用いた粉じんの指標は地域の現況を考慮すると過大な数値であることから、工事の実施に当たっては当初からの粉じん対策である散水に加えて、工事車両の通行経路に可能な限り鉄板を敷設することにより飛散防止を図る。

D. 供用後の施設稼働による排ガスの影響（長期予測）

大気汚染物質の排出量3ケースについて予測した結果は、年間98%値、2%除外値による長期評価でいずれのケースでも環境基準を満足すると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

E. 供用後の施設稼働による排ガスの影響（短期予測）

通常の気象条件で大気汚染物質の排出量3ケースについて予測した将来の1時間値はい

ずれの項目についても環境基準を満足すると予測され、逆転層が形成されている場合でも将来の1時間値はいずれの項目についても環境基準を満足すると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

F. 供用後の関係車両通行による排ガスの影響

交通量3ケースについて予測した結果は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともにケースAの寄与濃度が最も多いが、バックグラウンド値を加味した将来の年間値はいずれの項目についても環境基準を満足すると予測された。また特別養護老人ホーム白寿荘について工場稼働による影響と関連車両通行による影響の複合的影響を検討した結果でも二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともにケースAが最も濃度が高くなっているが、将来の年間値はいずれの項目についても環境基準を満足すると予測され、環境の保全上の目標と整合している。

⑤ 評価

予測を行った各項目について、いずれも予測結果は環境の保全上の目標と整合が取れていることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。